

建材 マンスリー

700号 特別企画

業界にまつわる 700大集合!!

好木心

清らかな光に包まれた美しい木の音楽堂
「KOMOREBIDO」

No.700

2

FEBRUARY
2024

注目企業を訪ねる

株式会社植田板金店





700号 特別企画

業界にまつわる 700大集合!!

「建材マンスリー」は創刊700号を迎えました。皆様のご愛読に感謝し、今号は700号記念として、業界にまつわる“700”をご紹介します。



《「建材マンスリー」700号発刊に寄せて》
高度経済成長期の建設業界にデータや情報を迅速に発信

月刊「建材マンスリー」は、1964年8月に創刊され、今号で700号を迎えました。1964年といえば東海道新幹線が開業し、東京で初めてオリンピックが開催された年です。IMF8条国*に移行して先進国の仲間入りを果たすなど、日本にとつては、重要な時期でした。建材に関する新たな月刊誌を刊行する目的と意義を、創刊号では次のように述べています。

「戦後の急速な経済復興から高度経済成長への展開の中で、建築生産においても高度な合理化が求められている。また建材は“現場生産”から“工場生産”へと移行し、建材の多様化がもたらされた。多様な種類を持ち、厳しい競争にさらされている商品を取り扱っていくために必要なのは、商品およびその市場動向についての秩序だったデータであり迅速な情報である。建材マンスリーはこれらの要請に正しく応えていくものと期待している」

木材建材業界に役立つ情報を様々な角度から届ける

「建材マンスリー」は旧安宅産業で創刊後、2006年に住友林業へと引き継がれました。2010年、木材建材業界の発展に有益な情報を収集・発信し、業界の活性化に貢献することをスローガンに掲げ、内容を改定。併せて、B5判・16ページ・モノクロ印刷から、A4判・12ページ・オールカラー印刷へと大幅なリニューアルを実施しました。そして2014年8月号からはデザインとロゴマークを変更して誌面を刷新しています。また、いつでも誌面を閲覧していただけるよう当社HPにバックナンバーを公開しました。

直近の特集では「水素エネルギー活用最前線」「建材流通の“変革”に挑む」などの時代に即した話題や、定例の企画として「住宅取得に係る施策」などを皆様に提供しています。長きにわたり業界情報を発信し続けられたのも、ひとえに読者の皆様への支えがあったからこそです。しかし700号は一つの通過点に過ぎません。これからも木材建材業界に役立つ情報を、真摯にお届けしていきます。

* IMF8条国：IMF（国際通貨基金）加盟国のうち、IMF協定第8条の規定に基づき為替制限を撤廃した国

標高
700m



標高**700m**の地に立つ
絶景カフェ「茶寮石尊」
／神奈川県伊勢原市

「茶寮石尊」は、標高**700m**の絶景を味わえるカフェ。伊勢原市のシンボル大山（標高1,252m）の中腹に建つ「大山阿夫利（おおやまあふり）神社」下社の客殿を改装し、2019年4月にオープンした。人々が気軽に神社と触れ合えるようにという願いを含め、設計を日本の建築界を代表する建築家の堀部安嗣氏に、施工を国の重要文化財修復に携わる宮大工の内田幸夫氏にゆだね、風情溢れる空間に仕上げた。テラス席、内部のテーブル席、座敷の3層構造になっており、晴れていれば相模湾や伊豆大島、房総半島までの大パノラマを望める。
(住所：神奈川県伊勢原市大山12)

700号特別企画

700 大集合!!

「建材マンスリー」
700号発刊記念として
“700”にまつわる
モノやコトを
集めてみました



樹齢
700年

700年生き続ける「實相寺の椎の木」
／石川県七尾市



實相寺は1566年、日順により開山された日蓮宗の寺で、小高い丘に16の寺院が集まる「山の寺院群」の中の一つだ。鬼子母神と加藤清正公が祀られる本堂の横を進んで裏庭に出ると、樹齢**700年**の見事な椎のご神木が迎えてくれる。うねうねと伸びた幹を持つ異形の巨木の宿り神は「妙蓮大善神」とも「天狗」ともいわれ、「絶体絶命の際に祈らば、一度は必ず助ける」という神託があるそうだ。樹齢700年の椎の木は、今年1月1日に起きた震度6強の能登半島地震を耐え抜き、その勇姿を見事に保っている。
(住所：石川県七尾市小島町リ-126)

階段
700段

奥の院へ**700段**の石段が続く「室生寺」
／奈良県宇陀市



奥の院まで**700段**もの石段が続く室生寺は、うっそうとした山あい立つ真言宗室生寺派の大本山。女人禁制だった高野山に対し、古くから女性の参詣が許されていたことから、「女人高野」として親しまれている。仁王門をくぐり自然石を積み上げた石段の参道「鎧坂（よろいざか）」を越え、弥勒堂や国宝の金堂・本堂・五重塔を巡り、奥の院へ。石段の両側には季節の花が植えられ、春には石楠花（しゃくなげ）、初夏には青紅葉、秋には紅葉の木々が参拝者を和ませてくれる。
(住所：奈良県宇陀市室生78)

700本の青森ヒバに
支えられた「鶴の舞橋」
／青森県北津軽郡

青森ヒバ
700本

青森県の最高峰、岩木山の山影を湖面に映す津軽富士見湖に架けられた鶴の舞橋。1994年に建築された全長300mの日本一長い木造三連太鼓橋であり、橋脚には樹齢150年以上の青森ヒバが**700本**使用されている。優しいアーチを描く橋の姿は鶴が空を舞うようだとうたわれる。また「長い木の橋＝長生きの橋、といわれ、長寿や開運のパワースポットとしても注目されている。供用から30年近くたち、現在、改修工事が行われている。
(住所：青森県北津軽郡鶴田町廻堰大沢81-150)



植樹
700本

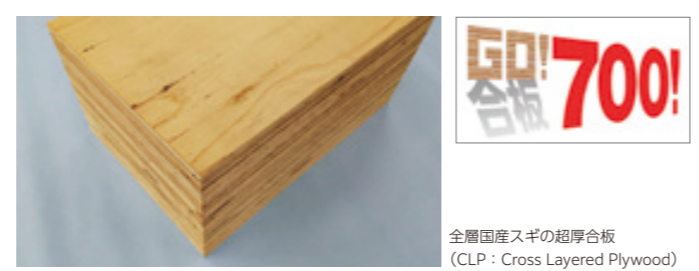
落葉樹と常緑樹を合わせて
700本以上植樹した「都立明治公園」
／東京都新宿区



2024年1月、国立競技場と日本オリンピックミュージアムに挟まれた1.6haの敷地に「都立明治公園」がグランドオープン。芝生の「希望の広場」、渋谷川をモチーフとした水景を取り入れた「みち広場」などの他、100年後に東京のレガシーとなる杜を実現するため、およそ7,500㎡の樹林地「誇りの杜」を整備。落葉樹約508本、常緑樹約214本など**700本**以上をバランスよく生育するよう植樹し、自然の力も活用した自成長する杜を目指していく。
(住所：東京都新宿区麩ヶ丘町内ほか)

目標
700万㎡

国産材利用量目標**700万㎡**
「GO(合板)！700！」
／日本合板工業組合連合会



合板に使われる国産材原木（スギ、ヒノキ、カラマツなど）は2000年ごろにはほぼゼロであったが、2022年には491万㎡まで増えている。国産材の需要拡大によるカーボンニュートラルの実現に向け、日本合板工業組合連合会では「森林・林業基本計画」で示された合板用材の国産材利用量**700万㎡**の達成を目指し「Go(合板)！700！」をスローガンとして掲げ、さらなる国産材合板の需要拡大を図っている。
(住所：東京都千代田区神田三崎町2丁目21番2号 プライム水道橋8階)

樹齢
700年の柱



樹齢**700年**の米松を利用した柱が立ち並ぶ
「平戸オランダ商館」
／長崎県平戸市

平戸オランダ商館は、1609年に東インド会社によって建築された貿易拠点を復元した施設で、平戸の歴史や海外交流前史などを展示している。内部には、1辺約50cmの巨大な柱が中央部1階に11本、2階に10本並んでいる。柱に用いられているのはカナダ産の樹齢**700年**の米松。建物中央に大きな柱が立ち並ぶのはオランダの建築様式の倉庫の特徴だが、これほどの巨大な木材を使用したケースはまれだという。
(住所：長崎県平戸市大久保町2477番地)

700のこれに注目!!



東海道新幹線700系

写真提供：JR東海

東海道新幹線700系車両のアルミを「建材」に再利用

東海道新幹線700系は、乗り心地の良さと「カモノハシ」に似た顔立ちで人々に親しまれていた。惜しまれながら引退となったが、車体に用いられていたアルミ素材が今、「再生アルミ建材」として新たな役割を果たしている。

「再生アルミ開発」は、2020年東京オリンピックに向けて駅利用が大幅に増えると予想された東京駅の駅ナカ商業施設を再開発するプロジェクトから始まった。JR東海の子会社、東京ステーション開発でプロジェクト担当を務めた中村和弘氏は、建築費が高騰する中でコストを低減するため、新幹線の再生アルミに注目した。

「アルミは鋼材と同等の強度を持ちながらも軽く、表面がきれいです。また、仕上げが不要でさびることもありません。リサイクルしやすく、スクラップを溶かして作

る再生アルミは、製造時のエネルギーが新地金の3%で済むなど、環境にも優しい素材です。さらに700系には建築基準法で認定されたアルミ合金が使われていると分かり、それなら引退した車両を再利用してみよう」と、「再生アルミ開発」に舵を切ったのです。ところが、これがなかなかの難物でした」

試行錯誤の結果 車両のアルミリサイクルを確立

リサイクルの優等生といわれるアルミだが、新幹線のアルミ合金の場合、何層もの塗装や断熱材、ボルトなどの付着物がしっかりと食い込んでいます。これらの除去は簡単には行えないため、これまで引退した車両はスクラップにされ、鉄を作る際の脱酸素添加剤として利用されるだけだった。「再生アルミの活用という発想はと

ても良かったのですが、付着物の除去は困難の連続でした。試行錯誤を重ね、より細かく裁断・粉碎し、手作業による選別などの工程を組み合わせて付着物を減らし、溶解で残った付着物とアルミを分離するという、高品質な再生アルミ精製の工程にたどり着いたのです。新幹線のアルミがリサイクル製品として使われるのは初めてで、この方法は、『アルミニウム製鉄道車両のリサイクル方法』として特許を取得しています」

こうして700系の再生アルミが東京駅八重洲口の商業施設「東京ギフトパレット」の内装建材として、柱・壁、各店舗ののれん、天井の装飾に使用された。その量はおおよそ4両分だという。

「柱は再生アルミ100%で作られており、アルミの押出技術で製造しました。各店舗ののれんは再生アルミの使用率を50%に抑え、折れないようにしながらも極限まで薄くしてのれんの動きを表現しました。天井と柱の上部を飾る桜装飾のレリーフには再生アルミを20%使用し



東京ステーション開発株式会社 施設部 開発管理課 課長代理

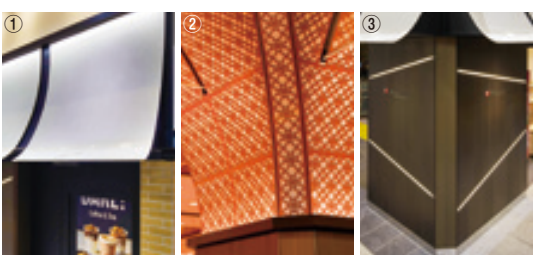
中村 和弘氏

ています。アルミを厚さ3mmに圧延した後、レーザーカット技術で八重洲の桜の花びらの加工を施しました。こうして多くの企業の協力により、『東京ギフトパレット』が2020年8月にオープンしました」

「1964年東京五輪」のシンボルだった東海道新幹線が、「2020年東京五輪」の年に建材に生まれ変わって新たなストーリーが始まった。JR東海では再生アルミのブランド化に向けて、今後も様々な取り組みを行っていくという。



東京ギフトパレット



- ① 大仏や平等院鳳凰堂の鳳凰を作る鋳造技術で製造されたのれん
- ② 1円玉の製造技術を応用して作られた桜装飾
- ③ アルミニウムの押出技術で製造した柱

清らかな光に包まれた 美しい木の音楽堂 「KOMOREBIDO」



2

019年、JR京都駅からほど近い場所に、木の音楽堂「KOMOREBIDO」が誕生した。の音楽堂「KOMOREBIDO」が誕生した。「コンフォート・ミニマリズム」をデザインコンセプトとする都市型ホテル「ザ・サウザンド京都」内のセレモニースペースで、内装や外壁に国産木材をふんだんに用いた、洗練されたデザインが特徴だ。あえて十字架を掲げず、多彩なスタイルで挙式を行っている。

足を踏み入れると開放的な空間が広がっている。入り口は尖頭アーチ状で高さ8m、最奥部は長方形となっており天井高は10mにも達する。正面で新郎新婦とゲストを迎えるのは、壁一面に広がる無彩色のモザイクガラスだ。揺れる木々の影を映しながら、優しい光を室内へと届けている。

最も特徴的なのは、側面に沿って天井から伸び、整然と連なる無数の縦格子。手前から奥に向かって1本1本わずかに傾きをつけて曲面にすることで、入り口と正面の祭壇をつないでいる。格子の下部は緩やかな曲線を描いて視線を外へ誘い、低くとられた開口部からは表に広がる水盤と緑豊かな庭を望むことができる。また、祭壇部分の天井にも格子があしらわれ、清らかな陽光の光を落ととしている。

格子に使われているのは、京都府産のスギ材だ。寒暖差の激しい地域で育つため、強くたわみにくいとされている。それでいて木目の表情は優しく温か。自然素材ならではの「一つひとつ異なる表情を生かすデザイン」となっており、晴れの舞台を彩るとともに、和の趣も感じられる。また外観には、宮崎県産の鉄肥^{おび}スギを使用。鉄骨造の躯体を鎧張り^{よろい}で包み込み、周囲の自然と一体化させている。外壁を白系の色合いに仕上げることで、白華現象^{びらけ}*が起きても目立ちにくいよう配慮したという。伝統と美しさを思わせる木の音楽堂は、木漏れ日のように降り注ぐ光で、今日も新たな門出を迎える二人を祝福している。

* 白華現象：木材内部の成分が空気中の水分と反応し、乾いて白く結晶化すること

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

「この縁がきつかけとなり、2022年には再び隈氏とコラボしたCLT小屋プロジェクト「木庵」の販売を開始。内壁はCLT現し、外壁はヒノキ羽目板、屋根はガルバリウム鋼板の縦ハゼ葺き*で、木の

「外壁にはブリーツ柄のような最新のパターンを施しました。これはガルバリウム鋼板を叩くことで生まれたもので、隈氏の最新デザインと当社の技術が最大限に生かされた仕上げになっています。内部には岡山県産のヒノキ材をふんだんに使用しており、地元の木材を発信するという思いも込めています」

「こうして隈氏の協力を得て、前面を大開口とし半透明な庇を設けて内部空間に自然光を取り入れた「小屋のワ」が生まれた。小屋同士をつなげれば様々なニーズに対応できるパブリックな軒下空間が生まれる。

「建築家の隈研吾氏とコラボして生み出した小屋でグッドデザイン賞を受賞した会社がある。その名は植田板金店だ。低価格帯で高品質・省施工の小屋を提供し、そのニーズを広げ注目を集めている。板金の職人集団が、いかにして独創的な小屋をつくるに至ったのだろうか。

板金の職人集団の技術力を集結した「小屋事業」で新境地を切り開く



代表取締役 植田 博幸氏

本社 ●岡山県岡山市中区藤崎673番地
創業 ●1976年
資本金 ●3,000万円
従業員 ●62名
事業内容 ●板金工事、屋根工事、外壁工事、雨どい、塗装、リフォーム、「小屋やさん」の企画販売他

株式会社 植田板金店

ここが注目ポイント

若手育成や職人の安定雇用のため
小屋事業に挑戦

有名建築家とのコラボを実現し
認知度アップ

地域の人々が集う拠点を狙った
展示場「ひとやね」を開設

「小屋やさん」の特徴



隈研吾氏デザイン・監修の「小屋のワ」。他の小屋をつなげることで張り出した軒が広がり、一体感を生み出す



屋根と小屋の展示場とコワーキングスペースの複合施設「ひとやね」

の事業の柱づくりに着手しました」

「着目したのはBtoCの小屋事業だ。そのきっかけは『雨の日』だったという。

「屋根や外装工事が中心の板金業は、雨が降ると仕事が完全にストップします。しかし、屋内で最終組み立てまで行える小屋事業なら天候に左右されず、閑散期でも継続的に職人を雇いやすくなります。また、小屋づくりは屋根や外装施工など板金事業に必要な要素が詰まっているため、若手職人の育成にも役立ちます。業界の課題解決も兼ねる新規事業が小屋だったわけです」

「2017年に「小屋やさん」のブランド名で事業をスタート。高い板金技術を基盤とする同社の小屋は、新築住宅と同様の材料を使いながらも低価格で提供される。10㎡以内のためトラックでの運搬が可能で、施工も半日で完了する。また、躯体に穴を開けずにトラックから下ろせる金具を開発し、雨漏りなどの心配も解消。一般住宅と同等のクオリティで他社との差別化を図り、「岡山イノベーションコンテスト2017」大賞も受賞した。さらにそのポテンシャルを示したのが、隈氏との「コラボ」だった。

新規事業で認知度アップを図り
従来事業の業績も回復

「「小屋やさん」という新しい事業の認知心地よさ、素材のよさを存分に感じられるつくりとなっている。

「家族の離れとして、趣味に没頭できる部屋として、またネイルサロンやピアノ教室など庭先でできるスモールビジネスの拠点としてなど、小屋は様々なニーズに応えられる商品として注目されています。『小屋やさん』の立ち上げ以降、当社の技術力をBtoCにスライドした新ブランド「屋根やさん」や「遮熱やさん」もスタートしました。売り上げは今もBtoBが80%を占めていますが、小屋事業による認知度アップも後押しとなり、事業承継以降12年連続の増収を果たしています」

「同社は2024年1月、屋根と小屋の展示場にコワーキングスペースの機能を併せ持った複合施設「ひとやね」をオープンした。建物や外壁には多彩な屋根材や外壁材を用い、屋外には13棟の小屋を展示。また室内に設置した4棟の小屋は、会議室や個室としても活用可能だ。

「小屋事業を通じて新たなつながりや学びの機会を得た経験から、私と同じように2代目・3代目といった跡継ぎの「ミニコミュニティ」の場としても活用されることを目指しています。スタートアップや新規事業の拠点となるような場をつくり、それが地域貢献にもつながればうれしいですね」

*縦ハゼ葺き：金属屋根の施工方法の一種。軒に対して垂直に板金を敷き、板金同士の接合部を折り曲げ処理したもの

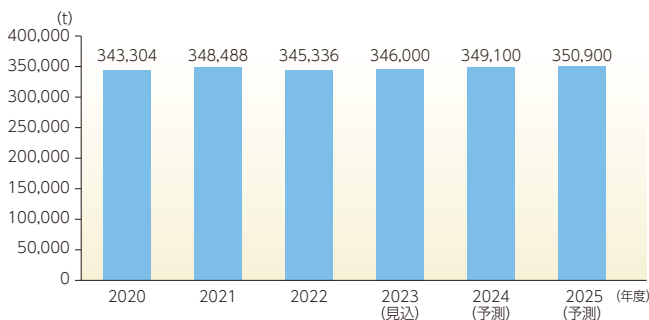
「住宅用断熱建材市場」に関する調査を実施 — 株式会社矢野経済研究所

矢野経済研究所は国内の住宅用断熱建材市場を調査し、出荷量・市場規模、分野別の動向、参入企業動向、将来展望を公表した。2022年度の住宅用断熱材（7分野計*1）の市場規模は、数量ベースでは前年度比0.9%減の34万5,336t、金額ベースでは同4.5%増の1,818億円と推計した。数量ベースの市場規模は微減となったが、金額ベースの市場規模は高性能な断熱材の販売増加による単価上昇、原材料費や物流費の上昇などを背景とした価格改定の影響により増加となった。

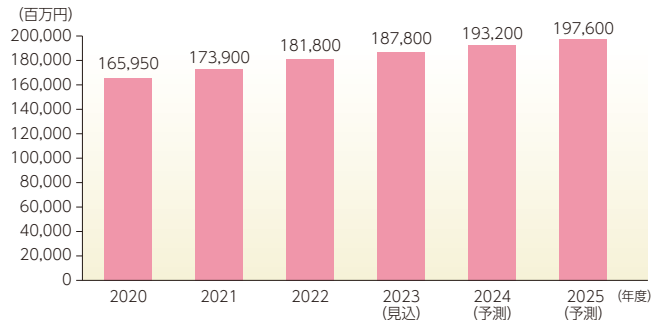
2023年度の住宅用断熱材市場は、数量ベースでは前年度比0.2%増の34万6,000t、金額ベースでは同3.3%増の1,878億円の見込み。2022年度には長期優良住宅や低炭素建築物の認定基準が引き上げられ、2025年度から全ての新築住宅に省エネルギー基準の適合が義務付けられる。このことから今後住宅の高断熱化への取り組みは広がるとみられ、住宅用断熱材市場はさらに拡大する見通しである。

*1 グラスウール、ロックウール、硬質ウレタンフォーム、押出法ポリスチレンフォーム、セルローズファイバー、ビーズ法ポリスチレンフォーム、フェノールフォームの7分野の断熱材のうち、住宅用に使用されるもの

市場規模(数量)推移・予測



市場規模(金額)推移・予測



注1：メーカー出荷数量、出荷金額ベース
注2：2023年度は見込値、2024、2025年度は予測値
注3：*1を対象とした

広告募集のご案内

「建材マンスリー」では、2024年度の広告を募集しています。
木材建材業界でビジネスを展開される御社の宣伝・PRに、当媒体をぜひご活用ください。



広告ページは裏表紙のみ

- 掲載募集月
2024年4月号～2025年3月号
- 掲載料
66,500円（税別）
- 入稿体裁・仕様
お申し込み後、別途ご案内します
- お申し込み締め切り
2024年3月1日（金）

同一の月に複数の会社様からお申し込みいただいた場合は抽選となります。なお、締め切り以降でも調整可能な場合がございますので、お問い合わせください

○ お問い合わせ・お申し込み

住友林業(株)木材建材事業本部 業務企画部
建材マンスリー編集室
FAX 03-3214-3269
E-mail kenzai-monthly@sfc.co.jp

編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー

検索



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス：kenzai-monthly@sfc.co.jp

FAX：03-3214-3269

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

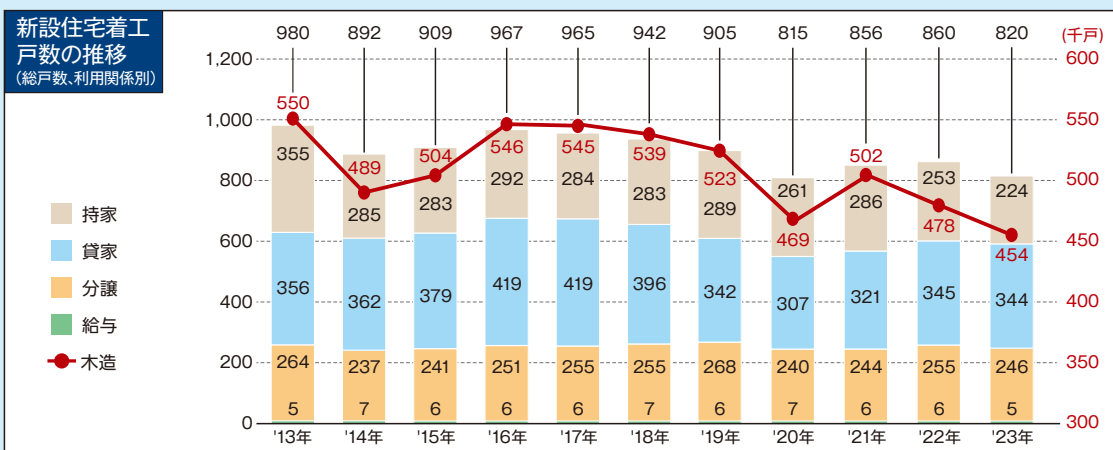
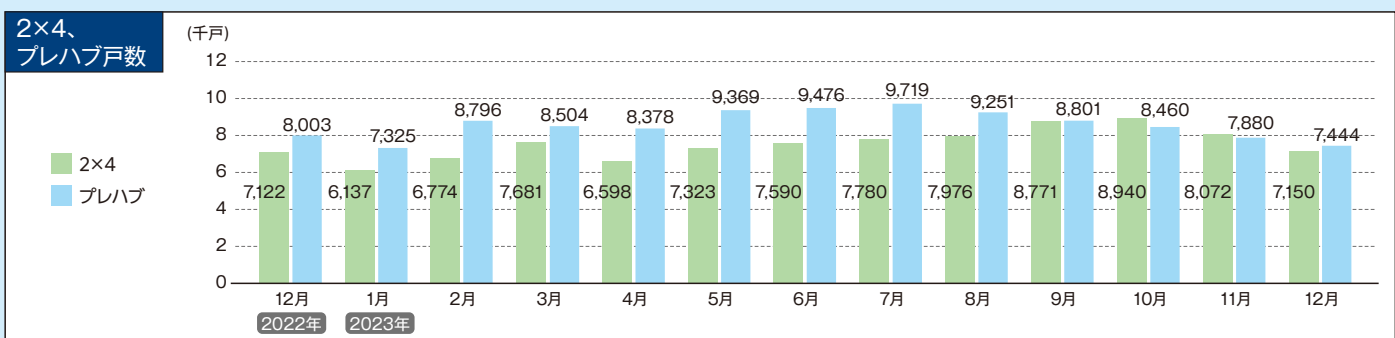
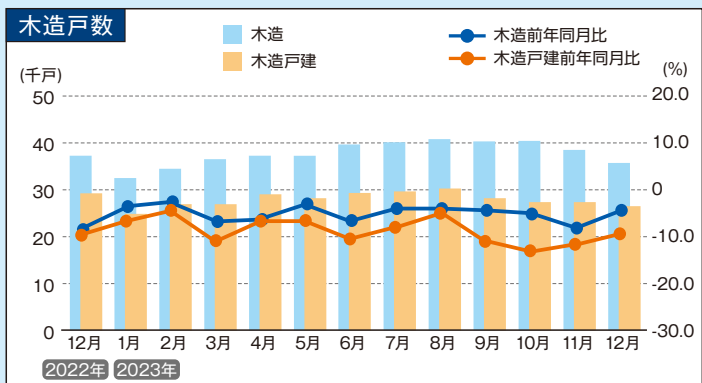
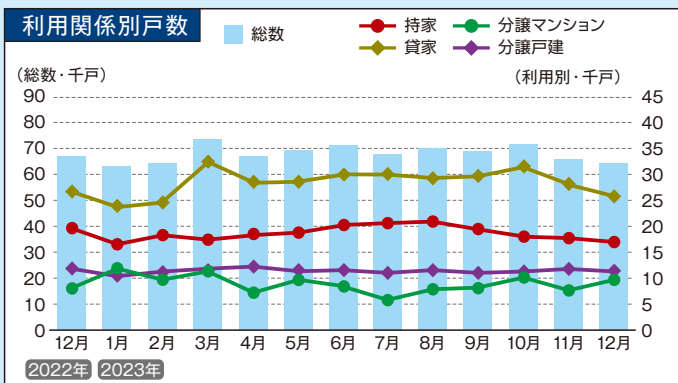
好きな数字は？と聞かれて“7”と答える方も多いと思います。ラッキーセブン、七夕、七福神、ウルトラセブン(?)など、身近なところにあふれ幸福をもたらしてくれそうな数字だからでしょうか。そんな700号という節目の年に立ち会えたのも、ひとえにご愛読いただいている読者の皆様と、半世紀以上にわたり建材マンスリーをつないでくれた方々のおかげと感謝しております。本誌は今後どのような歴史を歩むのか、どうぞご期待ください。(S)

表紙：住友林業(株)住宅事業本部 京都支店 福知山展示場

* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

2023年12月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		12月				11月	10月	9月	
		対前年同月比		対前々年同月比					
新設住宅計		64,586	▲ 2,663	▲ 4.0%	▲ 3,807	▲ 5.6%	66,238	71,769	68,941
建築主別	公共	690	54	8.5%	▲ 131	▲ 16.0%	587	638	396
	民間	63,896	▲ 2,717	▲ 4.1%	▲ 3,676	▲ 5.4%	65,651	71,131	68,545
利用関係別	持家	17,031	▲ 2,737	▲ 13.8%	▲ 5,700	▲ 25.1%	17,789	18,078	19,527
	貸家	25,869	▲ 976	▲ 3.6%	647	2.6%	28,275	31,671	29,735
	給与住宅	366	▲ 70	▲ 16.1%	▲ 147	▲ 28.7%	596	438	413
	分譲住宅	21,320	1,120	5.5%	1,393	7.0%	19,578	21,582	19,266
	うちマンション うち戸建	9,722 11,470	1,605 ▲ 507	19.8% ▲ 4.2%	2,631 ▲ 1,253	37.1% ▲ 9.8%	7,671 11,835	10,174 11,368	8,148 11,014
資金別	民間資金	59,758	▲ 1,335	▲ 2.2%	▲ 2,824	▲ 4.5%	61,054	65,997	63,276
	公的資金	4,828	▲ 1,328	▲ 21.6%	▲ 983	▲ 16.9%	5,184	5,772	5,665
	公営住宅	646	155	31.6%	233	56.4%	276	325	391
	住宅金融機構融資住宅	1,834	▲ 472	▲ 20.5%	▲ 880	▲ 32.4%	1,808	2,231	2,140
	都市再生機構建設住宅	0	▲ 70	▲ 100.0%	▲ 229	▲ 100.0%	212	0	0
	その他住宅	2,348	▲ 941	▲ 28.6%	▲ 107	▲ 4.4%	2,888	3,216	3,134
構造別	木造	35,730	▲ 1,648	▲ 4.4%	▲ 5,130	▲ 12.6%	38,755	40,550	40,440
	非木造	28,856	▲ 1,015	▲ 3.4%	1,323	4.8%	27,483	31,219	28,501
	鉄骨鉄筋コンクリート造	367	135	58.2%	116	46.2%	565	372	414
	鉄筋コンクリート造	20,567	▲ 15	▲ 0.1%	3,504	20.5%	18,405	20,910	18,012
	鉄骨造	7,852	▲ 1,116	▲ 12.4%	▲ 2,290	▲ 22.6%	8,453	9,882	10,023
	コンクリートブロック造 その他	39 31	3 ▲ 22	8.3% ▲ 41.5%	▲ 5 ▲ 2	▲ 11.4% ▲ 6.1%	42 18	32 23	36 16



2023年
新設住宅着工戸数
819,623戸

↓

前年比
4.6%減で
3年ぶりの減少



Collagia

\debut/

コラージア



家族の“ひととき”を 楽しむキッチン。

なんとなくそばにいる。会話する。味見する。笑う。ちょっと手伝う。一緒に食べる。片づける。くつろぐ。

家族みんなの心と体がやさしく満たされる。それぞれが、わが家をもっと好きになる。

“食べる”を、毎日もっと大切にするために。

トクラスキッチン「コラージア」。

ここは、家族の楽しいひとときを積み重ねて、“最高の暮らし”をかなえる場所です。



トクラス株式会社

<https://www.toclas.co.jp>